

会報

大学生協友の会

2025年6月1日
第46号
大学生協友の会発行〒166-8352 東京都杉並区和田3-30-22 全国大学生協連役員室 TEL: 03-5307-1111
E-mail: unicoop@univcoop.or.jp ホームページ: <https://unico.itigo.jp/>

7月定例会のご案内

大学生協友の会幹事長 伊野瀬十三

今、世界はトランプ関税に代表されるトランプの狂乱ぶりに右往左往させられ、国内においても米をはじめとする物価の高騰など日々の暮らしが、大きな不安と窮屈感に覆われています。石破内閣は、トランプには媚びへつらい国益を失い、国内のインフレ状況に対しても何ら対策を打ちことができず政権の体をなしていません。

そうした中、今通常国会において、日本学術会議の特殊法人化法案が自・公・維新の賛成で可決されました。そもそもその発端は、2020年兼々学問・研究の軍事利用に反対する学術会議に不満を抱いていた菅総理が、新規会員の推薦者の内6名をこれまでの慣例を破り、突如任命除外したことになりました。任命拒否の理由は、一貫して明らかにしませんでしたが、政権の意向に異を唱えた学者を排除することは明白でした。その不当性を覆い隠すためにだといわれているこの法案は、多数の「外部機関」による組織・運営への介入や管理・監督の強化、そして財政を政府の意図のままコントロールできる内容となっています。第二次世界大戦の反省のもと、1948年に制定された日本学術会議法を骨抜きにし、まさに政府の学問・研究への介入に道を開き、学術会議のみならず社会全体に学問と言論、批判精神の萎縮を広げかねないものです。今後もこの法の廃棄を求めるとともに、法案に賛成した自・公・維新には、7月の参議院選挙において必ずや痛い目にあわせなければなりません。

さて来る7月12日（土）、友の会の定例総会が開催されます。この間、コロナの影響もあり、友の会への新規加入がなかなか進まず会の存続に関わる

大きな問題になっています。こうした中で幹事は魅力ある友の会をどのようにして創るか、現役世代へ会への関心をどのように高めていくのか、さらに加入費の減免措置など加入しやすい条件づくり等などの検討を重ねてきました。今総会では通常議案に加え、会員の加入促進をはかるための当面する施策を特別報告として提案する予定です。加えて、役員改選期もありますので、新たな役員体制について確認いただきます。

会員におかれましては万障お繰り合わせの上、ご参加されますようにお願い申し上げます。

以上

第33回定例会開催

日時: 2025年7月12日（土）14:00～17:00

場所: 大学生協杉並会館

○第一部：総会 14:00～15:00

議題：定例議題、特別報告、役員選任

○第二部：懇親会15:00～17:00

【お願い】欠席の方含め、近況報告のご記入にご協力ください。

※別紙同様ののがき、または以下のメール迄
uni.coop@univcoop.or.jp

提出期限: 2025年6月21日（土）まで

大学生協の近況と「変わる大学生活」

全国大学生協連 専務理事 中森一朗

【はじめに】

2020年の新型コロナ感染拡大以降、皆様におかれましては「最近の大学生協はどうなのか」というご心配をおかけしていることかと思います。ここでは、直近の2024年度全国大学生協の経営結果と合わせ、第60回学生生活実態調査（以下「60学調」）結果を活用し、背景にある「変わる大学生活」について紹介させていただこうと思います。

※60学調の報告詳細は以下のページよりご覧いただけます。

<https://www.univcoop.or.jp/press/life/report.html>

【2024年度決算状況】

・全国の大学生協の2024年度（2024年3月～2025年2月）決算結果は以下の通りです。

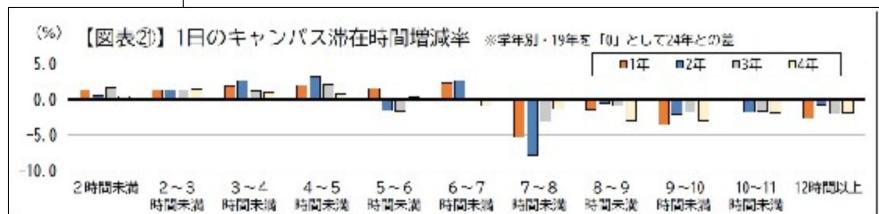
供給高	1448.7億（前年比+3.3%）
事業総剰余金	392.2億（同+2.2%）
人件費	241.3億（同+3.3%）
物件費	177.0億（同+3.8%）
経常剰余	▲10.9億

・コロナ禍で史上最悪の決算となった2020年度に比べ、供給高は約8割の回復にとどまっています。また近年は雇用や物流情勢変化・物価高騰の影響を受けた経費増の傾向が顕著であり、残念ながら大学生協全体として黒字構造を再確立するには至っておらず、大変厳しい経営状況が続いている。加えて、18歳人口減少に伴う大学入学定員割れ問題は大学生協にとっても他人事ではなく、すでに入学者定員の過半数を確保できない大学も始めており、当然ながら会員生協経営を圧迫しています。

【変わる大学生活①：もはや昔のキャンパスではない？】

・供給高が回復しない理由の一因は「キャンパス滞在時間の減少」です。60学調によると、コロナ前（2019年）に比べ、明らかに1日7時間以上の長期滞

在者の比率は減少しています。



・コロナ禍の象徴であった「ついたてを隔て、黙食を強いられる食堂」はすでに過去のものとなっていますが、その中で急速に広がったオンライン講義は現在でも大学教育に随所に活用されており、学外での学習機会は着実に増えています。またコロナ禍の「ステイホーム」は「おうち時間」として現代のライフスタイルに好意的に採り入れられており、そういった状況から大学キャンパスは「用事があるときだけいる」場所になっています。サークル加入率も63.8%まで回復したものの、コロナ前に比べ低い水準が固定化しています。

【変わる大学生活②：過去最高の大学生活充実度】

・では今の大学生はどのような大学生活をどう感じているのでしょうか？実は60学調において「自分の学生生活は充実している」と回答する大学生は93.0%と過去最高値なのです！2020年には1年生（コロナ禍の新入生）の充実度が56.5%と激減しましたが、その後は急速に回復し、ここ2年過去最高水準を更新しています。

・もう一つ注目すべきは、大学生活の重点を「勉強」と回答する大学生の多さです。昔は「良き人間関係づくり」と拮抗していましたが、60学調では「勉学」33.5%、「人間関係」14.3%とかなり差を広げています。関連して、昨年より調査開始したChatGPT等の生成系AIの活用経験は、「利用経験あり」が昨年46.7%→60学調68.2%と急増傾向です。昔は教員に眉をひそめられた講義中のパソコンやスマートフォンの活用も、現代では「必要なもの」となっており、これも隔世の感があります。

・総じて「勉強が楽しくて、大学外の活動も含め学生生活充実を感じる大学生」の姿が見えてきます。我々大学生協としては、「おうち時間」「推し活」「新しい学び（ICT活用、地域連携等々）」「インターンシップ・社会体験」「生成系AI活用」など、新たに多様化する大学生の生活実態とその楽しさ・悩みをより深く把握し、自らの提案を革新する必要があるのだと感じます。

※しかし一方で、多様化すればするほど大学生協の経営は難しくなることを痛感しています・・・

【変わる大学生活③：くらしむきの変化】

- ・他方で目を向けるべきは、昨今の物価高騰等の動きを踏まえた学生のくらしむきの問題です。
- ・まず奨学金について「平均値」を見てみると、受給率は28.6%（前年比▲0.3ポイント）、下宿生の生活費（収入）における奨学金額は19,140円／月（前年比▲520円）と、大きな変化はありません。しかし、下宿生のうち奨学金受給者に限定してみると61,650円／月となり、この情勢下でのくらしむきは気になるところです。
- ・次にアルバイトについて見てみると、この間の時給アップの情勢を受け、アルバイト収入額は50,970円／月（前年比+2,270円）と増加傾向です。しかし、月7万円以上のアルバイト収入を得る学生比率がジリジリと増加傾向にあるのが気になるところです。「月7万円以上」ということは、平均的な大学生よりも「一日あたり1時間アルバイト時間が長い」ということであり、健康や学業への支障が懸念されます。
- ・60学調の自由記入欄を読むと、奨学金受給をめぐり受給の有無や支給判定に対する「怨嗟」の声や、最近話題となっている「103万の壁」に関する賛否の声などが多く寄せられています。大学生協として、多様な組合員の生活実態に寄り添い、より多くの組合員との対話を通じた協同が必要であると感じます。
- ・また大学生協事業としても、これらのくらしの問題にどう向き合うのかは大きな課題です。昨今の物価高騰、とりわけ米価高騰の問題は、当然ながら大学生協の経営にも大きな影響を及ぼしています。事業を通じて適切な剰余を確保することと、学生組合員のくらしをしっかりと支えていくことの両方をどのように実現するのか、私たちの知恵と努力が必要です。

【これからの大學生協】

・ここまでコロナ禍を経て変化した大学生活を中心にご紹介してきました。皆様のお近くに「イマドキの大学生」がおられましたら、ぜひとも「キャンパスライフ」をテーマにお話しいただければと思います。きっとお互いに新鮮な気持ち（笑）で盛り上がるのではないかと思います！

・さてこのような状況を受けて、大学生協はどのように進むべきなのか。私も含め試行錯誤の日々は続いている。しかしながら、大学生活がどう変わろうとも、「よりよい生活」実現のための要望・期待・不安・悩みは存在しており、「人と人がつながり、力を合わせて取り組むこと」の価値は不变です。私たちはこれからも、「変わる大学生活」に深い関心を持ち、大学生を始めとする組合員との対話の中で、大学生協として取り組むべき課題を見いだし、組合員と協同を通じて取り組むことが必要です。これからも頑張って参りますので、皆様のご支援をよろしくお願ひいたします。

【おわりに】

・これらの課題に楽しんで取り組んでいたつもりでしたが、私自身は2023年秋に大病を患い、その後半年間入退院を繰り返しながらの在宅勤務を強いられる状況となりました。一部の皆様にも大変ご心配をおかけいたしましたが、幸いその後の経過は順調に推移し、現在は杉並会館での勤務を元気にこなしています。お近くにお寄りの際は、ぜひともお声かけいただければ幸いです。



韓・協同組合の源流の地

2020年退職 斎藤淑人



韓国の教育というと、日本以上に受験戦争と学歴主義の問題が指摘されますが、忠清南道の農村部にあるプルム学校（プルム農業高等技術学校）は、競争原理に依存しない韓国のオルタナティブ教育実践として注目を集めています。北欧のフォルケホイスコーレ（国民高等学校）のような存在でもあります。プルム学校と周辺地域は、環境教育や持続可能な生態系を学ぶ教育実践とともに、草の根の地域づくりの場としても注目されています。海外からの視察も多く、国内の進歩派の市長なども研修団を派遣していました。日本のキリスト教系農業高校（愛農学園等）や有機農業家との関係も深く、韓国の中では早くから有機農業を実践していました。韓国では幼稚園から高校までの学校給食（昼食）が無償化されました、韓国の学校給食の食材は「親環境農産物」を優先使用しています。金大中政権下で無農薬や有機農産物栽培を「親環境農業」として法制化し、その後の学校給食無償化運動により、親環境食材を優先導入せよという機運が高まり、現在、学校給食の3割以上が親環境食材となっています。

プルム学校周辺地域では、協同組合組織づくりも活発で、学生が運営する学校生協、そこから派生した地域生協、信用組合、医療社会協同組合、生産協同組合（マッコリ醸造所等）、農事組合などが存在します。また、協同組合立図書館や学童クラブ、農村自治研究所、居酒屋の協同組合もあり、社会的公共施設や組織の多くは住民出資型の協同組合運営と

なっています。こうした活動の源流は、軍事政権の時代に「キリスト教無教会派」の活動として行われており、韓国では特異な学園と地域でした。

無教会派といえば内村鑑三ですが、彼は「平民主義」を朝鮮半島に伝えたともいわれており、プルム学校の庭の碑文には「偉大なる平民」という言葉が刻まれています。内村が記者をしていた「萬朝報」には、大逆事件で死刑になった幸徳秋水もいました。ちなみに、幸徳の設立した「平民社」は、連合会旅行部門の事務所（1990年前後）があった新宿南口（代々木側）にありました。プルム学校の創立者は日本とのつながりも深く、戦前に日本で学んだ足跡があります。（大東文化大学・尾花清氏の研究「李贊甲の日本渡航の謎を解明する」）また、元校長の洪淳明（ホン・スミョン）氏は海外の原書を多数取り寄せ研究していました。その中には日本から購入していた「現代農業」などの農業雑誌もあります。洪氏は賀川豊彦の著作も一部翻訳し、この地の出版協同組合から出版しています。現在のプルム学園理事長の朴境（パク・ワン）氏は東京大学農学部の留学生で、今でも頻繁に日韓を行き来しています。

私の初訪問は2016年頃で、どんな地域かまったく想像していませんでしたが、実際に視察し話を聞いて、まるでスペインのモンドラゴン協同組合グループの韓国型農村版のようだと感じました。最近出版された『韓国協同組合運動100年史』（市民セクター政策機構）の中にも、韓国協同組合運動の源流の地として多くの記述があります。洪淳明元校長は「かねてより協同組合活動を行うべきだ、学校を開校する時にも協同組合に取り組まなければならないという想いがありました」と語っています。

現在、多摩地域の地方自治研究所とプルム学校地域の研究所との交流事業を行っています。この学校では軍政時代から日本語教育も行われており（極めて異例）、卒業生の多くが日本語を理解できるのでたいへん助かります。

紹介HP hsecsup.wixsite.com/poolmoo

生協だれでも9条ネットワーク学習と討議のつどい開催報告

生協だれでも9条ネットワーク幹事会

生協だれでも9条ネットワーク幹事会

日 時：2025年3月29日（土）14:00～
16:00

場 所：コーププラザ4階会議室

内 容：

講演「日本被団協ノーベル平和賞授賞式に同行して」

二村 瞳子さん（日本生協連常務理事）

報告「被爆者の思いと運動を受け継いで」

伊藤 和久さん（ノーモア・ヒバクシャ

記憶遺産を継承する会事務局長）



全体討議への問題提起（生協
だれでも9条ネットワーク共同代表 齋藤嘉璋）

参加：計126名（うちリアル
参加者56名、ZOOM参加者70名）

2025年3月19日（土）14:00～
16:00の日程で「学習と討議
のつどい：「日本被団協に学
ぼう！～ともに行動してきた生協の役割を考える」
が開催されました。

今回の集いは、東京・渋谷のコーププラザ会議室で
会場リアル参加とZOOMのインターネット配信を併用
しました。渋谷でのリアル参加者に向けた会場設営
と運営、ZOOMでの配信はともに大きな問題もなく進
行することが出来ました。お忙しい中、この「学習
と討議のつどい」にご参加いただいた皆様に心より
感謝申し上げます。

この日の東京は雨天の悪条件でしたが、当日の参加
者数は126人（リアル56人+ZOOM70人）となりま
した。ちなみに、参加の事前申し込み数は147人（リ
アル63人+ZOOM84人）でした。

二村報告ではノルウェー・オスロでの授賞式を動画
と写真を駆使して解りやすく伝えました。日本被団
協の受賞の様子や訪問団の裏話も含めた臨場感溢れ
る内容となりました。また、生協が平和を求める幅
広い取り組み（ピース・アクション）を歴史的に積
み上げてきたことを動画に要約して示し、日本被団
協のノーベル平和賞受賞を契機に被爆者の記憶遺産

を継承し、次の生協組合員世代につなぐことの重要
性を簡潔に伝えました。

伊藤報告では戦後・被爆80年の今こそ被爆者の記
憶遺産を集約し、保管場所や実務者の確保など世代
継承する手立てを早急に考えるべきだと訴えました。
また、この会を立ち上げた当時の時代背景と設立時
の関係者の思いを含めて語り、継続して取り組む意
義を強調しました。また、「ノーモア・ヒバクシャ
記憶遺産を継承する会」正会員の三崎さんから募金
を含む直接的な支援をお願いしますとのフォロー発
言がありました。

齋藤報告では日本被団協代表委員の田中熙巳さんと
学生時代から生協運動とともに取り組んだ経過や著
書「生協の歴史から戦争と平和を学ぶ」改訂新版を
刊行するにあたり、田中さんからメッセージをいた
だき本に掲載したことにもふれ、今回のノーベル平
和賞は「核タブー」が脅かされている現状に鑑み、
被爆80年に一年早めて昨年（2024年）の日本被団
協のノーベル平和賞受賞をノルウェー・ノーベル委
員会が判断したことを明かし、生協として何をなす
べきかとの積極的な論議を提起しました。

今後に向けて、平和を守る運動をより強め広げて
いくためにも全国的な活動交流の重要性を再確認し、
「生協だれでも9条ネットワーク」の活動を今回の
参加者のみなさんと連携し、より拡大、充実したもの
にして行きます。



2025年2月9日（日曜日）

所沢シティマラソン大会・チャレンジコース（6km）参加体験記

岡安喜三郎

6kmのコースを1時間で走破できるか
チャレンジした、完走証を受け取った

例年、12月上旬に開催していた「所沢シティマラソン」、今回は年を越えた2月上旬に行うということを、9月にメールか何かで知ることになった。

この3-4年、がんの手術や薬剤治療に明け暮れ（大腸がんの宣告から始まり→部分摘出、前立腺がん→全摘、はたまた2回目の胃がん→全摘、抗がん剤→「寛解」）、術後の体重63kgは余りにも貧弱、職場の仲間も何も言えない。1年間の化学療法（軽い抗がん剤療法このと）を乗り越え、2024年正月には鼠径ヘルニアの手術、その後は術後検査程度で済むだろうと踏んでいた。

ここで「所沢シティマラソン」の日程変更案内がきた。12月ならいろいろイベントで参加を考えたことがなかったが、2月上旬なら暇だと踏んで出てみようかなあと申し込んでしまった、とにかく何かチャレンジしたいと思っていた。

案内企画の中身はハーフマラソンコースとチャレンジコース（6kmの行程を1時間以内で走破）など。実は中学・高校を過ぎたら1回も「マラソン」や「ジョギング」なるものをやったことはない。大学の「運動」は精々社会運動。52歳の時は膝を痛めて歩行困難の憂き目にあった。60歳以降は早足の散歩程度。

参加費4,500円ははっきり言って高いが、これだけ払えば真面目に事前練習やるだろう、という自分の性格を見込んで鼓舞するつもりで申し込んだ。早速、ゆるゆるジョギングの勧めをテーマとした新書も買って読んでみた。「3ヶ月の練習で走れる」と銘打ってある、これならやれそうだ、12月からやれば良い。

残念ながら、申込時点の自分に対する鼓舞と期待を下回る現実の自分がいた。実行を先延ばしするのが敗北の始まり。そもそも禁煙だって「明日からやろう」というのは実はやれないことに通じる。

結局、何のジョギングらしき練習もせず、2月9日（日）当日が来てしまった。どうなることやら。その後奮闘して、今はなんとか腕立て伏せ15回、スクワット50回×2回程度までは復活した。散歩といっても早足ウォーキングなので、平坦なら時速6kmくらいは大丈夫だろうと思っていたが、ジョギングもしていなかったので、何が起きたか？ 当日最初のゆるい下り坂を数分駆けたら、足に来るのではなく、息が続かないという現実に直面した。肺機能は59歳の第1次胃がん手術の際の肺機能検査（肺活量測定の後もう一回限界まで息を吐くなど）で、同年代の《117%》との結果が出た。これは全身麻酔手術準備の「体力検査」みたいなもの。そこで変な自信が付いてしまったようだ。即、徒步。

全行程平坦な道なら時速6kmの歩行はそんなに無謀なことではない、しかしその現実の目の前のコースは、見れば見るほど起伏が激しい。加えて北風で寒い。西武ドームから狭山湖のダム土手下まで下



り、それから40m上の土手まで一気に上る。右のような起伏。登り累計53m、下り累計53m。面白いことに、その登りの時は、結構若いジョガーバイクを歩いて追い越すことができた、しかし平地や下りはジョガーバイクの方が早い。どうも呼吸訓練の差なのかも知れない。



狭山湖の土手を降りたところに中途の45分閑門（チェックポイント）があつた。「あと1分、200mあるよ」とのスタッフの声。オイオイここで切られたら元も子もない、閑門までさすがに「全力疾走」してしまった。10秒残して無事通過！ 短距離は結構無呼吸で出来るかも。

閑門通過した後、「もう閑門はないですね」と確認した。「ありませんよ」の声を聞いて、ペースを落として歩き始めた。「ゆっくりしないで～」の激励とも非難ともつかない声が後ろから、スタッフの声。でも今更頑張る気力も体力もない、「完走」は保証されたのだから、ひたすらペースを私の通常ウォーキング程度に落とした（それでも一般歩行よりは速い）。疲れてもいたし。前をスカートの女性2人が歩いている。後ろには「最後尾」と書いたマイクロバスはヒタヒタとついてくる。前の2人に「シンガリは任しておけ！」と言いながら歩いた。沿道の人が「頑張れ」「ガンバレ」。つい一部ジョギング。持つわけない。で、ゴールに着いたのはこれも表示では10秒前！ 一応完走の範囲に入った。先の女性が「一緒にゴールしましょう！」との励みで、本当に一緒にゴールした。（おまけ）しかし、主催者側の記録はまた別の話。

おかげで「完走証」を貰った。

記録：59分38秒（スタート号砲からゴールまでの時間、これが公式記録）

ネットタイム：58分54秒（スタートラインを踏んでからゴールラインを踏むまでの時間）

（参加者が多く列をなしているのでこういう記録が。後ろの方からスタート者のためのサービス）

何はともあれ公式の記録として1時間を作ったのにはホッとした。完走証（冒頭画像）が貰えることが分かった。時刻はほぼ12時25分。

面白いのは、記録59分38秒もしごれるが、男子全員の完走者では私が最後だったということもしごれる。周回欄の「1」は周回した意味、「START」は出発時のみの記録、完走できなかった人、「-」は棄権だろう。一定のチャレンジ精神がなければスタートできない。

私はゴルフで言えば「ブービーメーカー」、それは背後のマイクロバスで分かっていたことだが、なかなか取れるものではない。ゴールしてからそのまま西武球場前駅へ、34分発の電車に乗り次駅の下山口駅で降り徒歩、午後1時には帰宅した。

ほぼゴルフ1ラウンド（プレー時間は正味5時間から6時間）よりちょっときつい。2日間ほどの筋肉痛が続いたが、ゴルフと違ったのはその後、週の後半からは「足が軽い」。理由は分からないが実感している。

大変だったのは低温の北風で実は喉がやられた。呼吸の訓練も大事だ。

順位	氏名	周回	記録
581		1	56:55
582	No.6569 岡安 喜三郎	1	59:38
-	START	-	-
-	START	-	-
-	START	-	-
-	START	-	-
-	-	-	-
			男子全員

→では来年もチャレンジするか？ 9月ごろ考えます。 (2025年2月20日記)

了

埼玉大学生協OBG会報告

コーポ共済連大学本部 大本隆史

埼玉大学生協OBG会 開催報告

コーポ共済連大学本部で勤務しております大本隆史です。今回は、2025年1月11日に開催された「埼玉大学生協OBG会」の報告をさせていただきます。



埼玉大学生協OBG会は、埼玉大学生協創立40周年の2000年に、埼玉大学生協初代専務理事・大友氏の呼びかけで発足しました。第1回の集まりは、同年に全面改裝された第一食堂で開催されました。会則や会費は特に設けず、自主的な集まりとして、すべての役職員経験者を対象としています。2010年には生協設立50周年を記念し、歴代の学生委員と生協職員経験者が集まり、第2回の会が開催されました。その後、2020年6月に久しぶりのOBG会開催を目指して幹事会を開きました。この機会に、創立初期メンバーから2021年3月卒業予定の学生委員経験者までの名簿を整理し、SNSを活用した連絡網を構築しました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、一時集まりが途絶えました。2022年9月に幹事会が再開されたことを機に、主にLINEグループを通じた連絡が行われています。

開催当日の様子

会は第二食堂をお借りし、30代から70代まで幅広い年齢層の男女14名が集まりました。埼玉大学生協で勤務経験のある方だけでなく、卒業後に様々な職業に就かれた方々が参加し、自己紹介と近況報告を行いました。社会に出てからの活躍ぶりや、学生時代に築かれた絆の強さを改めて感じる場となりました。

た。また、河本専務理事より生協の近況報告がありました。

○経営状況

2024年の新入生生協加入率は88.0%、共済加入率は51.8%。供給高は、2019年の10億6千万円から2020年には5億3千万円まで減少。2023年度は6億9千万円、2024年度は7億を超える見通しです。

大学での対面授業が原則実施されている中、年間利用者数はコロナ前の半分程度に留まり、キャンパスライフの変化に対応した新たな取り組みが進められています。

(年間利用者数の推移：2024年度実績 449,856人、2019年度実績 831,693人)

○大学との協力関係

100円朝食を110日間実施。

夏季受験生サポート企画の実施など、安定した関係を維持しています。

○組織活動

「Activity Report」を活用し、100名を超える学生委員が活発に活動しています。

今年度、新入生歓迎企画で673名の参加を得ました。



今後の展望

会の終了後は、懐かしい北浦和駅に場所を移し、懇親を深めました。今後は年に1~2回の集まりを継続し、さらに多くの方々に参加を呼び掛けることを確認し合いました。